

第1群（研究報告）

石巻管内の高齢者介護施設における看取りの実態について

○東部保健福祉事務所(石巻保健所) 技術主幹 菅原真弓
小杉清香, 菅原彩

キーワード: 地域包括ケア, 高齢者入所施設, 看取りの実態, 看護師

I 目的

衛生統計年報で死亡場所の確認は可能だが、管内施設の看取り実施施設数、看取りの状況等は把握できない。そのため、管内の高齢者介護施設における看取りの現状を把握し、看取りができる要因、困難にする要因を明確にし、今後の管内における地域包括ケアシステムの構築推進の取組に活かすことを目的とし、本調査を実施した。

II 方法

(1)対象と調査方法

管内の高齢者入所施設（介護老人福祉施設、介護老人保健施設、認知症対応型共同生活介護、有料老人ホーム等）98か所に対し、2016年5月、調査票を対象施設に郵送し返信を求めた。

(2)調査期間 2016年5月19日から2016年6月30日まで

(3)調査内容

入所者・職員の人数、看取りの有無、指針・マニュアルの有無、過去3年度毎の看取りの疾患別人数とした。さらに、看取りの支障になっているもの、看取りを行うために重要と考えること、家族の看取りの希望・延命治療をしない旨の書面での意思確認、主治医・看護師との連携の困難感、施設内研修の状況の記載も求めた。

(4)倫理的配慮

個人が特定されることがないように配慮し、実施・公表には所属長の承認を得ている。

(5)分析方法

すべての質問項目について単純集計を行った。看取りの有無、看護師の有無での差を見るため、看取りの支障となること、看取りを行うために重要なこと等の項目で χ^2 検定を行った。医師等との連携のしやすさ、連絡回数等の項目は点数化し、順位検定を行った。

III 結果

- ・回答施設数 96（率 98%）、看取りの実施施設 41（42%）、今後実施予定施設 9（9%）。
- ・看取り実施人数は、2013～2015年度で、68人、104人、128人と増加していた。
- ・未実施 46 施設の看取りの支障となっていることで、「看取り介護の知識不足」の項目の回答が多かった。看護師がいる群といない群で比較すると、「マンパワー不足」の項目に有意差があった。
- ・看取りを行うために重要なことは、「医師・看護師の協力・連携」、「スタッフの看取りの知識」の項目の回答が多かった。看取りの実施群と未実施群で、「施設管理者の理解」、「施設の方針」、「本人・家族の看取りの希望」の項目に有意差があった。
- ・急変時の医師・看護職・介護職・家族との連携、連絡のしやすさは、看取りの実施群と未実施群で、全ての項目で有意差があった。
- ・直近の看取りにおける緊急時の医師・看護職・介護職員・家族への連絡回数では、看護師がいる群といない群の比較で、「医師への連絡回数」で有意差があった。

IV 考察

- ・看取りの実施施設は、医師・看護職・介護職との連携下で、ケアプランに基づくケアを行っているので、困難さをあまり感じていないと考えられた。
 - ・施設内に看護師がいることで、医療との連携が図りやすくなり、看護師は施設看取りに大きな役割を担っていると考えられた。
- ◎本調査の結果を介護・医療職を対象とした専門職研修会等で報告予定。また、調査結果を踏まえ、当所の事業を計画し、今後の高齢者施設における看取りの推進の一助になるよう進めていきたい。